

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 006	提案機関名 秦野市
要望問題名 下水道汚泥肥料の農業利用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 秦野市浄水管理センターで生産される乾燥汚泥は、「秦野リサイクルパワー」の名称で、農林水産省に肥料登録しておりますが、有効成分が微量であること、独特の臭いがあること、粉状の肥料のため飛散しやすい等の課題があり、市場へは流通していない状況です。 国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、今後、農業分野における環境負荷の低減や国内未利用資源の活用等を推進する必要がある中、また、昨今の肥料高騰などの社会情勢からも、当市として当該肥料を有効活用していきたいと考えています。 このため、農業利用を前提として、適合作物や施肥量、施肥のタイミング、施肥（散布）方法等、有効な使用方法について試験研究により明確にさせていただき、今後、利用拡大を図っていきたいと考えています。 ※「秦野リサイクルパワー」については、別添のとおり	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	神奈川県農業技術センター	担当部所	生産環境部
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 乾燥汚泥は臭気の問題や粉状などで使用しにくいことから、緑地や芝などに窒素肥料やリン酸肥料としての使用が向いています（「下水汚泥の農地・緑地利用マニュアル-2005年度版-（社団法人日本下水道協会編集）」参照）。下水汚泥を農業利用する場合は、堆肥化（コンポスト化）や粒状化（ペレット化）するなど、二次加工して使用しやすい形にすることが推奨されていますし、窒素、リン酸、加里、苦土、石灰、及び全炭素などの内容分量も保証する必要があります。 なお、乾燥汚泥の二次加工した資材の栽培試験を実施する場合は、使用方法の検討等に協力します。			
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			